道 決心すれば見えてくる

充実

発表。
の中で喜瀬実行委員
「iPadをはじめ
た電子書籍に関する
の出現によって、こ
で紙媒体が中心であ
印刷業界の中では大
になっていたが、少
う沈静化する動きに
ってきた。全てが電
される訳ではない
紙媒体と共存して
とを考えていかなけ
ならない。
れわれの業界は、2
5計画から始まり、

書籍に電子化の波が来て厳しい状況にあるが、いつまでも大変だと言っていても仕方がなく、そろそろ何か手を打っていかなければならない。生きるか死ぬかという意識を持たなければならない状況にあるが、なかなか一歩が踏み出せない現状にある。

『夢メッセ』は当初から印刷業界における将来に向けた夢のある話をメーカー・ベンダーから聞き、どういう道を選んで何が実現できるのかといったことを学ぶ場として今回で6回目を迎える。

今回は新しく参加する企業もあり、中には電子化の時代に生き残るための夢を話していただけるところもある。

それらに加えて、モリサワの森澤会長からの提案もあり、印刷業界の歴史を振り返るための『印刷技術文化のあゆみ』コーナーを設置し、本木昌造が作った和文活字鋳型を復元したものなどを展示し、昔の流れを今一度見直す場を設け、われわれの業界が五感を形にできる一番近い業界であることを参加者に提示したいと考えている」と抱負を語った。

査委員長の色川大吉
歴史家）は大賞につ
「記述内容、質、文
など、めったに作れ
作品であり、満場一
決めた」と述べた。
田慧氏（ルポライタ
中山千夏氏（作家）、
寿氏（日本自分史学
長）、秋林哲也氏（編
）、小飯塚一成氏（ラ
ー）の各審査委員か
部門賞と特別賞に選
ばれた書籍を講評した。
最終選考結果は次の通り
（敬称略）。

【日本自費出版文化賞・対象】
▽『対馬国志　第一巻（原始・古代編）、第二巻（中世・近世編）、第三巻（近代・現代編）』（永留久恵・長崎県対馬市）

【地域文化部門賞】
▽『ふるさと子供グラフティ（新装版）』（原賀隆一・熊本県熊本市）

【個人誌部門賞】
▽『天皇陛下と天福餅―ある銀行員の昭和史』（秋葉洋・東京都東久留米市）
▽『三十六年後の買物』（中村秀眞・埼玉県狭山市）

【小説・エッセイ部門賞】
▽『歌集　菜殻火』（佐野恭子・北九州市小倉南区）

【詩歌部門賞】
▽『満州開拓民悲史―碑が、土魂が、語りかける―』（高橋健男・新潟県見附市）

【研究・評論部門賞】
▽『豚と兵に』（山地としてる・香川県丸亀市）

【グラフィック部門賞】

【特別賞】
▽『じょんのびよもやま日記』（小林康生・新潟県新潟市）
▽『奈良朱し―私の奈良百句―』（河合佳代子・奈良県奈良市）
▽『人事労務管理事典』（山岸俊正・東京都足立区）
▽『林十江の生涯―画仙人　世の中の人には似ざりけり―』（小林富雄・茨城県水戸市）

大賞には、賞状ならびに賞金20万円、部門賞には賞状ならびに賞金5万円が贈られる。

偲ぶ

年機に

が国の近代印刷術基
いうべき活版印刷の
者である本木昌造先
、明治3年に五代友
の援助を得て「大阪
所」を開設したほか、
で初めて鉄橋・高麗
架設するなど、大阪
の近代文化にも大きく貢献した。

明治26年には大阪の印刷関係者によって「本木会」が結成され、拠金運動を行って本木先生の遺徳を讃えるため、明治30年に四天王寺境内に土地を求めて等身大の銅像を建立し、毎年10月に本木祭を営んできた。

しかし、太平洋戦争下の昭和18年に「金属類回収令」の強化実施に伴い、銅像が強制供出させられ、台座のみを残して終戦を迎えた。

その後、昭和27年には印刷関連業界10団体の協力によって、レリーフ胸像を埋め込んだ記念碑を修復し、同年10月に開眼式を行ったが「戦前の姿ではない」ということから、昭和59年に大阪印刷組合100周年事業として銅像を復元することを決定し、印刷関連業界有志の協賛を得て昭和60年10月1日に完成させた。

現在、全印工連では毎年9月を「印刷の月」と定め、印刷人としての意識の高揚と印刷に対する認識、情報産業の向上を期してPR活動を行っている。大阪においては、わが国印刷文化の創始者である本木先生の遺徳を偲び、命日の9月3日を中心として四天王寺境内の記念碑の前で本木祭を開催している（2000年から5年に1度の開催）。

当日は、和宗総本山四天王寺の山岡武明参詣課長を導師に四智讃（三礼、導師焼香、祭文、散華、読経、会長焼香、関連団体代表者焼香、参拝者焼香、回向、岩田会長あいさつと続き、業界の先人である本木先生の遺徳を偲んだ。

祭文の中で西井会長は本木先生の偉業に感謝の意を表明するとともに、「本木先生の銅像を前にし、改めて先生の大きな偉業を思う。情報が一番早く入る業界であり、それらを消化吸収し魅力的な業界へと変身させ、高度情報化の時代に対応するために、一層の努力を重ねることを誓う」と決意を表明した。

本木昌造氏の略歴は次の通り。

▽1824年　長崎市で出生。
▽1843年　オランダ使節来朝で通詞を務め、勤務精励により褒章を受ける。
▽1848年　活版革新の志をたて鉛活字をオランダから購入。
▽1851年　わが国初の「流し込み活字」を試作。自著「蘭和通弁書」を印刷（鉛製活字の始まり）。
▽1855年　山内容堂の嘱望で蒸気船の雛形を作る。
▽1860年　長崎飽ノ浦製鉄所御用掛拝命。製鉄業、航海業転進への気運高まる。
▽1868年　長崎飽ノ浦製鉄所の事務一切を委ねられ、製鉄業に専念。大阪で初めての鉄橋・高麗橋架設。
▽1869年　育英事業「新街私塾」開設。私塾維持基金のため活版業を発起。長崎に活版伝習所を創設。
▽1870年　五代友厚の援助を得て大阪活版所を開設。
▽1871年　京都、横浜、東京にも活版所開設。横浜では「横浜毎日新聞」の発刊に協力。
▽1875年　9月3日郷里長崎で永眠。

の地で大法要

骨塔で先達に感謝

て尽力された方、印
に就かれ今日の企業
成された方など尊敬
方々が多数おられ
大阪印刷関連業界が

追悼の辞を述べる西井会長

今日あるのは、物故された方々の偉大な功績であると深く感謝する」と述べ、追悼の辞を述べた。

続いて、各関連団体代表・遺族代表などの参列者は読経が流れる中、焼香を行った。

大阪印刷産業人物故者納骨塔は、1970年に大阪で開催された万国博覧会と第19回印刷文化典の開催を記念して大阪印刷関連団体協議会（現在19団体）所属の組合員（事業主）と篤志家の浄財によって建立されたもの。

大阪印刷関連団体協議会傘下の各団体企業経営者をはじめ、従業員は家族を含め誰でも納骨できるようになっている。

なお、2011年の慰霊祭・追悼法要は8月20日午前11時30分より行われる。

東印工組　三多摩支部が創立60周年

記念式典・祝賀会を開催

諸先輩を偲ぶ会も合わせ

東京都印刷工業組合三多摩支部（村上一宏支部長）は今年で創立60周年を迎え、60周年の式典と祝賀会を9月4日、ザ・クレストホテル立川で開催した。さらに、この機に合わせ鬼籍に入られた支部諸先輩を偲ぶ会も行われた。記念式典は、加藤顯彦副支部長の開式の言葉で始まり、村上支部長が「三多摩支部は丸60周年を迎えたが、技術と品質を追及してきた諸先輩の苦労の60年ではなかったか。私が印刷業界に入る前のイメージは『寅さん』のタコ社長のイメージだったが、今やあらゆる業界よりもデジタル化が進展しており、さらなる進化をしている」と振り返った。さらに、「大きな変化や幾度かの難局を乗り越え、三多摩支部は確固たる地位を築き上げてきた。本日、業界発展のための功労者の方々を表彰できることは心からお慶びを申し上げる」と表彰者を讃えた。

次いで、内田武記念事業実行委員長の挨拶に続き、19名の特別功労賞、8名の功労賞を表彰し、11社の関連業者に感謝状を贈呈した。

受賞者を代表して、システム印刷の根本純夫会長が謝辞を述べ、平成21年以降に加入した3社の協力会員ならびに4社の新会員が紹介された。

引き続き、来賓祝辞で、水上光啓東印工組理事長と原田豊東京グラフィックス三多摩支部長が祝辞を述べた。祝辞の中で、水上理事長は「60周年に繋がることは大変素晴らしい。60年続くことは企業でも大変であり、まさしく組合員の連帯、団結の賜物であり、感謝を申し上げる。鈴木支部長から村上支部長までの歴代の支部長、執行部、組合員の努力の賜物である」と称賛し、同支部の経緯を述べた。

また、「三多摩支部は23区以外の18市町村の全地域だが、よくまとまっていると思う。そして三多摩支部はとてもユニークな支部だが、中でも個人情報保護には力を入れており、支部から情報発信され、今年から東印工組の事業となった。今後も情熱を燃やし続けていってほしい」と期待を寄せた。

この後、井上彬第二委員会副委員長が閉式の言葉を述べ終了し、祝賀会に入った。

【物故者を偲ぶ会】

記念式典に先立ち、物故者を偲ぶ会が行われた。昭和54年に30周年の式典が行われ、支部に貢献した26柱の慰霊祭を行ったが、今回は34柱を偲んだ。

村上支部長は「30年前というと私は18歳で高校3年生であり、印刷という同じ土俵にたつことはなかった。しかし、生の声でのアドバイスはなかったが、諸先輩の方々は皆強い志を持って道を進んだ。これは組合員へしっかり受け継がれていると思っている。人は最期の時まで、影響を与えてくれる」と挨拶した。

次いで、34柱の物故者を紹介した後、参加者全員で黙祷し、原欣也顧問が追悼の言葉を述べた。

水上東印工組理事長と村上支部長に続き、ご遺族による献花が行われ、桜井孝三第一委員会委員長により、物故者の思い出の写真が映写された。

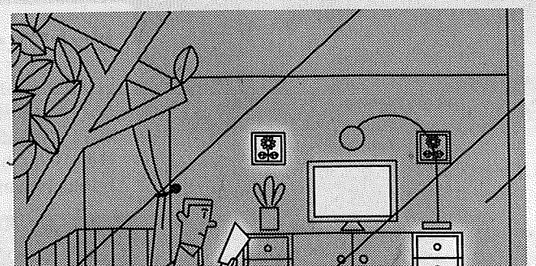
式典での受賞者は次のとおり（順不同・敬称略）。

【特別功労賞】
▽原欣哉（ハラ印刷）
▽桜井孝三（東信堂印刷所）▽比留間幸男（村山印刷）▽坂井満雄（坂井印刷）▽内田武（内田平和堂）▽澤武雄（光印刷）▽小野優（小野印刷）▽大久保秋生（共同印刷所）▽根本純夫（システム印刷）▽田中陸秀（秀和印刷）▽加藤顯彦（アガキ印刷）▽小池正雄（小池印刷）▽名取顕一（新星舎印刷所）▽小川一（小川印刷所）▽鈴木武（立川印刷所）▽小林昇（小林新聞印刷）▽藤原良成（藤原印刷）▽井上彬（アイ・スィー・アイ渡辺印刷）▽中山行夫（ナカヤマインサツ）

【功労賞】
▽宮森達郎（文林堂印刷所）▽栗原義秋（朝雅）▽水越繁雄（ミズコシ）▽水越浩行（ミズコシ）▽後藤政彦（内外印刷）▽玉木軍時（タマアートセンター）▽桜井伸昭（東信堂印刷所）▽内田和之（内田平和堂）

挨拶する村上一宏支部長

2010印刷産業夢メッセ
会期/2010年10月22日（金）・23日（土）
会場/KKRホテル広島
広島市中区東白島町19-65
TEL.082-221-3736
石には意思がある。
基調講演



想いを届け、
気持ちをかなえる。